

(1) 左岸1-A (堤防頂 地上1.2m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
9:00 ~ 9:10	58	60	55	57.0	5~10	
11:00 ~ 11:10	66	71	61	61.8	20~25	人の声、バイク、金属音
13:00 ~ 13:10	67	77	61	62.4	15~20	人の声、バイク、金属音、
15:00 ~ 15:10	66	75	60	62.0	15~20	バイク、
17:00 ~ 17:10	59	66	55	56.4	5~10	虫の声
19:10 ~ 19:20 (暗騒音)			53	62.4		虫の声、花火

(2) 左岸1-B (家屋付近 地上4.2m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
9:00 ~ 9:10	—		49	49.0	5~10	
11:00 ~ 11:10	55	60	49	50.8	20~25	人の声、バイク、金属音
13:00 ~ 13:10	57	68	52	52.5	15~20	人の声、バイク、金属音、
15:00 ~ 15:10	58	68	53	53.8	15~20	バイク、
17:00 ~ 17:10	53	58	51	54.8	5~10	人の声
19:10 ~ 19:20 (暗騒音)			49	51.3		虫の声、花火

(3) 左岸2-A (堤防頂 地上1.2m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
10:00 ~ 10:10	55	57	53	54.8	10~15	工事作業音、バイク通過
12:00 ~ 12:10	62	68	56	57.8	20~25	工事作業音
14:00 ~ 14:10	61	66	55	57.6	15~20	工事作業音、人の声
16:00 ~ 16:10	57	61	53	56.0	10~15	工事作業音、人の声等
17:30 ~ 17:40	56	60	52	55.9	0~5	工事作業音、人の声等
18:35 ~ 18:45 (暗騒音)			50	50.9		工事作業音、人の声等

(4) 左岸2-B (家屋付近 地上4.2m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
10:00 ~ 10:10	—		47	50.5	10~15	鳥、犬、虫、階段昇降音
12:00 ~ 12:10	56	60	51	51.7	20~25	
14:00 ~ 14:10	55	60	50	51.8	15~20	人の声
16:00 ~ 16:10	56	60	51	52.7	10~15	人の声
17:30 ~ 17:40	50	55	47	49.5	0~5	
18:35 ~ 18:45 (暗騒音)			45	46.3		虫、人の声、自動車通過

(1) 右岸1-A (堤防頂 地上1.2m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
9:00 ~ 9:10	62	66	60	61.0	5~10	
11:00 ~ 11:10	66	74	62	63.1	20~25	
13:00 ~ 13:10	67	75	63	64.4	15~20	
15:00 ~ 15:10	66	71	62	62.9	15~20	
17:00 ~ 17:10	63	68	61	61.8	5~10	
19:05 ~ 19:15 (暗騒音)			60	61.2		花火

(2) 右岸1-B (家屋付近 地上5.0m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
9:00 ~ 9:10	55	58	64	66.5	5~10	駐車車両(アイドリング)
11:00 ~ 11:10	55	57	64	65.4	20~25	
13:00 ~ 13:10	54	55	65	65.4	15~20	
15:00 ~ 15:10	54	55	63	65.4	15~20	
17:00 ~ 17:10	—		65	66.3	5~10	
19:05 ~ 19:15 (暗騒音)			64	65.4		花火

(3) 右岸2-A (堤防頂 地上1.2m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
10:00 ~ 10:10	65	69	62	62.8	10~15	
12:00 ~ 12:10	67	75	63	63.9	20~25	
14:00 ~ 14:10	60	62	61	63.1	15~20	
16:00 ~ 16:10	—		62	64.4	10~15	
17:30 ~ 17:40	59	61	60	62.9	0~5	
18:40 ~ 18:50 (暗騒音)			59	62.6		

(4) 右岸2-B (家屋付近 地上3.9m)

	水上バイクのピーク値		L ₅₀ [dB]	L _{eq}	走行台数 (台)	備 考
	平均	最大 [dB]				
10:00 ~ 10:10	53	55	62	65.2	10~15	
12:00 ~ 12:10	—		63	64.0	20~25	
14:00 ~ 14:10	55	57	63	66.6	15~20	車両(アイドリング)
16:00 ~ 16:10	52	52	61	64.9	10~15	
17:30 ~ 17:40	—		63	87.4	0~5	バイク通過
18:40 ~ 18:50 (暗騒音)			62	66.3		

【(財) 日本野鳥の会 大阪支部の意見】

平成10年12月15日に意見聴取をおこなった。日本野鳥の会は、「鳥を通じて自然と親しみ、その自然を守っていく」という目的で活動しており、全国5万人以上、大阪支部では約3000人の会員が所属している。

*野鳥の主な生息地

生息地の特性としては餌が豊富、野鳥と人間の距離があり、かつ、ヨシ原などの危険回避場所が確保されているところである。

①十三大橋～地下鉄御堂筋線橋梁

毎年10月～3月にかけて、大阪府域の淀川では約1万羽のカモが飛来しているが、府下では一番多い場所である。野鳥の種類としても年間100種類以上が確認されている。最近では水上オートバイがカモを追いかけて、右岸のヨシ原まで入ってくるため、その結果、淀川大堰の上流に約5千羽～6千羽が移動（危険回避）している。

（冬-ホシハジロ・キンクロハジロ・オナガガモ等）

（夏-サギ・シギ・チドリ・オオヨシキリ・カルガモ・セッカ等）

②菅原城北大橋付近（左岸ワンド群～右岸ヨシ群生息間）

ヨシ群がツバメのネグラになっている。特に7月～8月に多い。

③高槻市鷺殿ヨシ原付近

ツバメが最大約2万羽確認される。その他にマガモ、ヒドリガモ等の淡水ガモが生息している。

*問題点

- ・野鳥は人間を見て驚くので、船は違い水上オートバイは人間そのものの姿が見える。
- ・スピードがあるので、泳いで逃げる余裕がない。
- ・ジグザク走行等で野鳥を追いかけて、一斉に飛び立つのを楽しんでいる者がいる。

*要望事項

- ・野鳥と水上オートバイの共存は困難である。
- ・カモは8月半ばから淀川に飛来し、3月から4月にかけては淀川が渡りの中継地になっているので、冬季に水上オートバイはやめて欲しい。
- ・仮に水上オートバイを認めるならば、野鳥が少なくなっている一津屋地区を夏に、冬季に野鳥の少ない十三大橋～阪神電鉄橋梁を冬にが考えられるだろう。

水上オートバイ問題に係る大阪市漁業協同組合の意見について

平成11年2月16日(火)に意見聴取をおこなった。

[漁業の現状]

瀬戸内海環境保全特別措置法(昭和48年制定)が、長柄可動堰(淀川大堰)まで適用を受ける。河口から淀川大堰までの12kmが海面漁場となっている。5支部で76名の組合員がいる。長柄支部は淀川大堰をこえ、豊里で淡水魚を採っている。

漁の時間は魚の種類、風、潮の加減で違ってくるので、24時間漁を営んでいると思ってほしい。組合員全員が同一行動ではない。

[主な漁種]

淀川には135種類の稚魚があり、瀬戸内海13府県の稚魚の育成地である(大和川では48種類)。その理由は淀川には稚魚の育成に必要な淡水系のクロレラが豊富であり、大きな魚から身を守れる場所でもあるからである。

1. シラスウナギの稚魚

2月10日から5月31日までの期間特別さい捕
淀川大堰まで遡上してくる。

5000万円の漁獲高 100万円/kgで取引されている。

2. スズキの卵のふ化

2月3日からふ化し、秋までに何十億匹と育ち、瀬戸内海へと出ていく。
十三大橋から淀川大堰まで

3. ボラの稚魚

4. シジミ

3月から11月までの自由漁業
淀川の両岸

4000~5000万円の水揚げ高 25人から30人

5. ヨシエビ

相当繁殖している。

6. フグの卵

7月20日からふ化する。

7. 親のウナギ

8. シラウオ

近年、淀川でもかえってきつつある。

[水上オートバイについて]

騒音が一番問題である。スズキの漁法は驚かして捕るのだが、水上オートバイの音でスズキが散ってしまって、捕れなくなる。親のウナギは竹を3本束ねて、そこにウナギが寝床として休んでいるところを捕るのだが、音にビックリして逃げってしまう。空気中の騒音

も問題だが、水中の振動音も影響が大きい。

シジミは胸まである長靴をはいて川に入って捕るのだが、水上オートバイがぶつかってきそうで危険であり、また、近くをとおられたら、波で川の水が長靴の中に入ってしまい、濡れてしまう。

騒音についてはヤマハなどのメーカーに対して、昭和60年に陳情した。

走行についてもマナーが悪いので、我々が遠慮して船を走らせているくらいだ。

十三大橋からJR淀橋まで、ウィンドサーフィンのセーリングゾーン(L = 1.5 Km W = 200 ~ 300 m)としてある大学から話があったので認めている。彼らはマナーを守り、我々に迷惑をかけない。

柴島に上水道の取水口があるが、水上オートバイが走行した後は、油が浮いている。

[今後の水上オートバイについて]

水上オートバイは1台も走ってほしくない。

水上オートバイの影響で遡ってくる魚は減っている。

仮に、区域を決めて行うにしても、水上オートバイ連絡会で決めた事柄については会員は守るだろうが、会員以外のメンバーはルールを守らないであろう。事務局において徹底した管理が必要であろう。

メーカーにおいては騒音を抑える努力をすべきである。

神崎川の三国大橋の下流の田辺製菓のところは水上オートバイに適していると思う。大阪府の西大阪治水事務所の管理だが、そこなら漁協も応援する。

資料-5

大阪府淡水魚試験場の意見

淀川大堰から上流では、淡水魚を漁獲しているという話は聞かない。漁獲量はほとんどない。「漁獲養殖業漁獲統計表」によると、平成4年から0（1トン未満）で表示されているので、漁業（営業によるもの）はない。漁業権としては、昭和48年以降申請がなく自然消滅している。よって、水産資源としての魚類については、管理者がいない。

鮎は、淀川大堰の魚道から20万匹以上遡上している。鮎の性格は、わからないが、川幅の広いところでは、岸辺を泳ぐ。水の流れがある程度速いところを泳ぐ。水上オートバイとの関係はわからない。

*「淀川大堰上流大阪府域における淀川において、現在、淡水魚の漁獲量の実績は確認されていない。漁業としての実績はゼロである。」

<近畿農政局大阪統計事務所にて確認>